

議会報告会報告書（議会報告）

開催日時	平成30年11月20日（火） 19:00～19:52
開催場所	松本市音楽文化ホール 小ホール
出席議員	大久保真一、宮下正夫、芝山 稔、忠地義光、宮坂郁生、澤田佐久子、 犬飼信雄、上條俊道、小林あや、上條 温、村上幸雄、中島昌子、 田口輝子、勝野智行、川久保文良
参加人数	37名
報告に対する質疑	<p>Q：市役所新庁舎は現在地に建て替えということに決まったが、広い駐車場を確保できないし、場所としては悪いところだと思う。本庁まで行かなくてもすべての手続きが行えるよう各地区の地域づくりセンターの機能を充実してほしい。</p> <p>A：他の4つの候補地とあわせ、様々な角度から検証し、議会でも議論をする中で現在地となった。議会の中でも多くの議員から同じような意見が出ており、市長部局には改めて今のような意見があることを伝えていく。</p>
その他	<p>Q：松本城の世界遺産登録を目指す活動についての学習会において、お堀の臭いを何とかするべきとの発言をしたが、昔に比べれば良くなったと言われた。世界遺産登録のためだけでなく、観光客のためにも早急にヘドロ除去などを行い、きれいにしてほしい。</p> <p>A：150年前にお堀の浚渫を行ったと聞いている。平成25年に調査を行った結果、技術的な検討が必要ということがわかった。現在は地下水の流入量を増やしたり、EM菌の投入などにより対応している。堀全体の面積は3万㎡以上になるため、浚渫には莫大な費用がかかるが、平成31年度から具体的な工法や工程の検討を行うと聞いている。</p> <p>Q：お堀には外来種が生息しているが、駆逐するのかどうか。</p> <p>A：松本城管理事務所にそのことを伝え、対応を求めていく。</p>

松本市議会議長 様

平成30年11月21日

上記のとおり報告します。

報告者 川久保 文良 ・ 勝野 智行

議会報告会報告書（意見交換）

開催日時	平成30年11月20日（火） 19:56～20:41
開催場所	音楽文化ホール 小ホール
出席議員	大久保真一、芝山 稔、宮坂郁生、川久保文良、宮下正夫
参加人数	14名
意見交換	<p>テーマ名（ 防災 ）</p> <p>Q：指定避難所まで行く道幅が狭い。指定避難所の変更はできるのか。 A：変更することは可能。検討する中で避難所を複数カ所に分散させる方法もある。</p> <p>Q：壊れかかった空家がある。塀もあって地震が起こると危険だ。行政指導はできないか。塀の転倒防止工事に対する市の補助制度は。 A：一定の行政指導は可能。ブロック塀を撤去し、生垣に変更する場合には市から一定の補助金が出る。</p> <p>Q：備蓄倉庫のカギはどうなっているのか。災害が起きた場合、一般市民は勝手に物資を使用してよいのか。 A：カギは、危機管理課、小・中学校、避難所職員、管理業者が保管している。また、震度5以上の揺れを感知した場合、キーボックスが自動で開錠する仕組みになっている。</p> <p>Q：災害時にはトイレが一番大事だが、備蓄倉庫に携帯トイレは保管されているのか。 A：備蓄倉庫には、携帯トイレが2,500枚保管されている。他にガソリン、発電機、投光器、食料、水、毛布、使い捨てカイロ、敷き段ボール、段ボールベッド等がある。 各家庭での携帯トイレの備蓄を町会からも呼びかけてもらいたい。</p> <p>Q：災害時支援物資集積拠点には備蓄品は保管されているのか。 A：災害時に全国各地から送られてくる支援物資を一時的に保管するところであり、原則備蓄品は保管されていない。</p> <p>Q：1次、2次と避難場所が決められているが、その建物は安全か。 A：地震の規模や災害の程度にもよるので、安全かどうかわからない。災害が起きてみてから臨機応変に考え、対応するしかない。</p>

	<p>なお、市ではタンスや冷蔵庫などの転倒防止、また災害に備え各家庭で2～3日分の食料とその他必需品を備蓄しておくよう呼びかけている。</p> <p>Q：議員は段ボールベットに寝てみたことがあるか。これで本当に睡眠をとることができるのか。毛布を1枚敷いても大変だと思うが、市の担当者は一時的な使用だから、これでよいと言っている。もっと弱者のことを考えてもらいたい。</p> <p>A（議員）：一時的とは2～3日間のこと。高齢者や障がいのある方は福祉避難所に移ることになる。</p> <p>A（参加者）：床に直接寝るよりはましではないか。足の悪い人にとってはこちらの方がよい。</p> <p>Q：地震が起きてから支援物資が行き届くまでの時間的目安は。</p> <p>A：被災状況にもよるが、順次支援物資が届けられる。災害発生から3日間くらいは自力で生き延びられるよう、各家庭での備蓄を呼びかけている。</p>
その他	なし

松本市議会議長 様

平成30年11月27日

上記のとおり報告します。

報告者 宮下 正夫

議会報告会報告書（意見交換）

開催日時	平成30年11月20日（火） 19:56～20:57
開催場所	音楽文化ホール 第3練習室（A）
出席議員	田口輝子、犬飼信雄、村上幸雄、中島昌子、勝野智行
参加人数	11名
意見交換	<p>テーマ名（ 高齢者と子どもの見守り ）</p> <p>Q：島内地区はこどもプラザがあり、児童センターも新たにできたが、子どもの数が増えている。こどもプラザには小さな子どもも来るため、2、3歳の子どもは飛び跳ねたりして遊べない。月1回、福祉ひろばで子育て支援の事業を実施している。午前中は空いている児童センターで「つどいの広場」事業を実施してほしいと要望しているが、なかなか実現しない。</p> <p>A：現在21カ所でつどいの広場事業を行っている。島内地区にはこどもプラザがあることから、他地区の整備が終わってからになると市から正式な回答をもらっている。</p> <p>Q：17戸の小さな町会だが、ここ27年間公共交通機関がない。当時はまだよかったが、いまは高齢化が進んでおり、誰も車の運転ができない世帯が出てきている。タクシーを利用すると高額な料金がかかる。なんとか公共交通機関が欲しい。</p> <p>A：四賀地区では、年間100人以上人口減。社会福祉協議会が福祉車両で送迎している。ボランティアで、中心市街地まで片道500円で行っている。</p> <p>Q：昨年4月から、高齢福祉課、福祉計画課、南西部地域包括支援センターに協力してもらってお寺で認知症カフェを年10回実施している。単なるお茶飲み会ではなく、テーマを決めて出前講座で講師に来てもらっている。</p> <p>気になるのが、中央地域包括支援センターも民間委託になること。直営でなくなると機能も縮小されるのではと不安がある。各地域の包括支援センターを統括するのが中央地域包括支援センターだが、新聞報道によると、高齢福祉課だけで統括して、あとの機能は委託業者が行うとなっている。それで果たして大丈夫かなと、そこが非常に気になる。もうちょっと丁寧な説明をしてもらわないとシステムについてはよくわからない。各地域の包括支援センター間の横の連携がどこまであるのか。</p>

例えば、社会福祉協議会は医療機関をもっていないが、サービスの提供が等しくないと市民の理解を得られないのではないかと。

キャラバン・メイトとして認知症サポーターの研修会で講師もしている。研修会の構成メンバーの中で、市や社会福祉協議会、福祉施設、福祉ひろばの職員のように業務で来ている人と私たちのようなボランティアとでは考え方に温度差がある。普通のボランティアではできないようなことまで要求されても無理なので、考えてほしい。

A：今この場では答えられないので、持ち帰って議会の議論の中で市に質していく。

Q：中央地域包括支援センターの委託先はなぜ慈泉会になったのか。入札だったのか。ただ決まっただけではなく、詳しいことまで市民に知らせてもらわないと。

A：運営協議会で応募のあった業者の審査を行い決定した。議会への説明は、当初予算の審査時にされると思うが、確認できる部分は確認していきたい。

Q：懇親を深める意味でも敬老会行事を重視しているが、市は敬老会に係る補助金の見直しを進めている。補助が無くなったり、縮小されると、敬老会行事も見直さざるを得ない。年に1回、服装を整えて出掛けることを楽しみにしている人も多く、長生きに繋がっていると思う。補助金はあまり削減しないでほしい。

敬老会に出られるか尋ねに行く時と、出られなかった人への記念品の持参で、年2回様子を確認する機会ができる。これも補助があるからできること。

A：高齢者の定義を75歳以上にしたときの具体的な施策という話もあったが、高齢者の施策という部分で共通するものがある。皆さんの声を受け止めて、議会での議論に反映させていきたい。

要望・意見：

・働いている人が、介護が必要な親の面倒を見ていくための市の支援はどうなっているのか。また、ショートステイで病院に預かってもらう場合、年間60日までと決まっている。預ける日は朝10時半以降に病院に連れていき、迎えの日は朝10時までに来てと言われるが、実質2日間なのに3日と勘定される。理不尽に感じるが、改善できる余地はあるのか。

- ・民生委員をしているが、市から「一人暮らしの高齢者、老老世帯、80歳以上の人を見てください。調べてください」と言われている。しかし、同居家族はいるが、日中独居の人にも支援が必要。市でもそうした人を把握して、民生委員にその情報を流してもらい、もっと支援できる体制づくりがあればいい。
- ・市の福祉関係機関でもお互いの垣根が高いと感じる。介護認定を受けた時、要支援の場合は地域包括支援センターに連絡があるが、要介護の場合だと連絡が無い。福祉関係機関相互の情報共有がお粗末ではないか。
災害時等要援護者名簿は、自分から市に申請して登録される。一方、避難行動要支援者名簿は、市で掴んでいる情報を基に作られている。全国の9割以上の自治体はその情報を平常時にも民生委員に提供しているが、松本市はそうではない。福祉関係機関同士の情報の垣根を低くしていかないといけない。
- ・問題は、町会のご近所同士の間関係の希薄化。見守りにつながらない。町会でのイベントを通じて、みんなが顔見知りになる。みんなと一緒に行事に参加するという視点で取り組む必要がある。
- ・子どもたちの様子を見てみると、親御さんとどういう関係にいるのか疑問に思ってしまうことがある。どうやって関わったらいいのか。ただ見守るだけで手も足も出ない。
- ・高齢者の定義を松本市と長野市で65歳から75歳に引き上げると新聞で見た。印象として仕事をしている人たちの年齢も上がっているし、大変良いことだと思う。具体的に新しい定義をどう施策に生かしていくのかが見えないので、ぜひ今後注目していきたい。
- ・公民館や地域づくりセンター、町会長と連携して活動している。認知症カフェや三世代交流など自発的な活動が盛ん。そういうところに出てこれない人達への移動や買い物などの支援が必要。
- ・災害時等要援護者名簿の変更の話がある。何かあった時に名簿に載っていないければ、誰のところに連絡するのか。個人情報よりも、洗濯物が片付いているか、電気はついているかといったさりげない見守りを近所でやり合うようにしていかないと見守りはできない。

松本市議会議長 様

平成30年11月23日

上記のとおり報告します。

報告者 勝野 智行

議会報告会報告書（意見交換）

開催日時	平成30年11月20日（火） 19:58～20:59
開催場所	音楽文化ホール 第3練習室（B）
出席議員	上條俊道、忠地義光、小林あや、上條 温、澤田佐久子
参加人数	10名
意見交換	<p>テーマ名（ 地域の活性化 ）</p> <p>【町会】</p> <p>○課題</p> <p>(1) 高齢化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イベント時の交通手段がない。（送迎ボランティアはある。） ・ 地区の中心部に行くための交通手段がほしい。 →交通の利便性の格差、市街地との距離 ・ 若い世帯が増えてきている。 ・ 行事への参加は女性の方が多い。 →男性の参加が多い行事もある。 <p>(2) 後継者問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 65歳から75歳の世代の参加がほしい。（行事や伝統の後継） ・ 人と人のつながり、世代間のつながりが大切 ・ 今のうちに後継者育成が必要 <p>(3) 役員のやりがい、選出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リタイア世代が一般的になっている。（現役世代の年齢が上昇） ・ 仕事を持ちながら、片手間でできるくらいの仕事量でないとやり手がない。 ・ 行政の下請け ・ 負担軽減が必要 →何を軽減させるか。 ・ 引っ越してきて町会長になったが、地元のことがわからず、大変なこともある。 ・ 役員によって町会の運営に違いがある。 <p>(4) 人材の発掘</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 役員の選出がうまくいかない。 →適材適所であってほしいが →推薦制の導入 ・ 公民館行事で若いファミリーにも良いところを感じてもらう。 <p>(5) 新興集落との付き合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昔から住んでいる人との摩擦、町会の脱会 ・ 地元の拠点づくり →「山雅の会」

	<p>(6) 郊外の居住環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最寄駅周辺に家を建てられない。(都市計画による) <p>【多世代の地域づくり】</p> <p>○課題</p> <p>(1) 若者の無関心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町会への愛着が薄い。 →地域活性化は全世代共通 ・学校と連携した小中学生の地域行事への参加促進 →お互いの理解が深まる。 ・学校区域と地元帰属意識の醸成 <p>(2) 情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真入りの回覧版を10年継続して発行 ・ホームページ →若者へのアプローチ <p>まとめ</p> <p>キーワードは、後継者、負担の軽減策、若い世代への働きかけなど。それぞれ意見を出し合い、特にまとめはせず、散会としました。</p>
その他	<p>参加者全員が発言でき、それぞれの思いを述べられたことは、とても良かったと思いました。</p>

松本市議会議長 上條俊道 様

平成30年11月27日

上記のとおり報告します。

報告者 澤田 佐久子